

津和野町埋蔵文化財報告書

喜時雨地区埋蔵文化財
試掘調査報告書 II

1997

津和野町教育委員会

喜時雨地区埋蔵文化財 試掘調査報告書 Ⅱ

目 次

I.	調査に至る経緯	1
II.	位置と歴史的環境	2
III.	調査の方法と経過	4
IV.	調査の概要	4
V.	小結	18

例　言

1. 本書は、1996（平成8）年度に国、県の補助金を得て津和野町教育委員会が実施した埋蔵文化財試掘調査の報告書である。
2. 調査を実施した場所は、島根県鹿足郡津和野町大字田二穂、通称喜時雨地区である。調査所在地と小字名は第1表(P17)のとおりである。
3. 調査を実施した遺跡は、喜時雨遺跡である。
4. 調査にあたっては、下記の方々にご指導いただいた。

梅光女学院大学 渡辺 一雄 氏

島根県教育庁文化財課 広江 耕史 氏

5. 本書に用いた方位は、第1～4図は真北、その他の図は磁北である。
6. 本書中に用いた記号TPは、テストピット（試掘坑）の略号である。
7. テストピット実測図の縮尺は1/60または1/40である。遺物実測図のスケールは1/3とし、木製品の一部については1/6とした。
8. 写真図版中の遺物番号は、遺物実測図の遺物番号に対応する。
9. 調査に伴う記録類及び出土遺物は、津和野町教育委員会で保管している。
10. 調査の体制は、下記のとおりである。

調査主体 山根津知夫（津和野町教育委員会 教育長）～1996.9.30.

齊藤 数弘（タクミハル） 1996.10.1.～

事務局 益成 鑫（タカヒコ） 教育次長

広石 修（ヒロイシ シュウ） 文化係長

宮田 健一（ミヤタ ケンイチ） 文化係

調査担当者 宮田 健一（ミヤタ ケンイチ）

調査員 永田 茂美（エダカネ） 瞠託

調査補助員 藤田みちよ（タケダミチヨ） 臨時職員

外作業員 和崎定、和崎清子、竹岡保子、三東イヨノ、吉岡峯男、吉岡良子、斎藤ナツヨ、石井マツヨ、石井千代乃、石井タカ子、田村貞子、石井忠、益野巳之吉、

生田徳太郎、藤井静子、舛成義一、舛成米子、堀トミル、石井信義、斎藤豊

調査協力者 田村亘敏、田村啓二、三東康佳、藤井康二、石井文恵、河野春男、斎藤豊、後藤博、石井信義、三浦美男、陶山晃、和崎登、竹岡祥一、益野巳之吉、斎藤栄、川戸弘喜、西村靖（以上、土地所有者）

鹿足郡津和野町土地改良区、藤井康二（1996年度喜時雨地区嘱託）

ご協力いただいた皆様には、この場を借りてお礼申し上げます（敬称略）。

11. 本書は永田の協力のもと、宮田が編集にあたった。

I. 調査に至る経緯

これまでに喜時雨地区では弥生土器等の採集がされており、周知の遺跡として知られてきた。1983年には、町民グラウンドの建設に先だって、町内では初の本格的な埋蔵文化財調査が行われている。この時の試掘調査及び追加調査では、一部で中世の遺物、遺構の発見があった。



第1図 試掘調査対象範囲とその周辺 (1/10,000)

ところで、町内では1997年度以来、各所では場整備事業が実施されてきた。喜時雨地区においても団体営は場整備事業が計画され、事業主体である鹿足郡津和野町土地改良区と津和野町教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねてきた。そこで、事業計画地内の埋蔵文化財の分布状況を事前に把握し、保存についての措置を講じる必要から埋蔵文化財試掘調査を実施することとなった。1995年度には喜時雨地区北半について試掘調査をおこない、遺跡の分布状況を確認している。調査は、津和野町教育委員会の直営事業として、国・県の補助金を得て実施した。

II. 位置と歴史的環境

現在のところ津和野の歴史は縄文時代早期にまで遡り、高田遺跡（第2図1）、山崎遺跡（同図15）からは押型文土器が出土している。また、高田遺跡からは中期の阿高式、後期中頃の鐘崎式土器がまとまって発見され、対岸の大藤遺跡（同図3）からは後期後半の西平式土器が採集されるなど、当時この地域が九州地方の情報の及ぶ範囲であったことが窺える。

弥生時代後半から古墳時代前期にかけて集落が営まれていたことが高田遺跡で確認され、在地の土器群に混じって吉備地方から運ばれてきた外来の土器が発見されている。町内の古墳は、津和野川最上流の木部地区において鍛冶原古墳群が確認されているのみである。

高田遺跡からは奈良・平安時代の縁軸陶器、皇朝十二錢の一つ承和昌寶（836年初鑄）、大量の土師器、須恵器が発見されており、当時石見国鹿足郡能濃郷（元美濃郡鹿足郷）と呼ばれていたこの地域の重要な拠点が高田地区にあったものと思われる。

中世津和野の領主吉見氏は、弘安5（1282）年に元寇再防備のため能登国から津和野北部の木部地区に入り、その後14C代に津和野城を構えたと伝えられている。文献では吉見氏入部以前の記録はほとんど残されていないが、これまでの高田遺跡の発掘調査では12・13C代の白磁が大量に出土しており、吉見氏入部以前に津和野地方に有力者が存在していたことが考古学的証拠によって明きらかになりつつある。中世の津和野城の大手口は近世以降の大手口とは反対側の喜時雨にあったと伝えられ、吉見氏の居館も同地に存在していたとするのが通説である。喜時雨地区には

「本門口」「本門前」など館の存在を示唆する字名、「要害山」「幾久（戦）」など天文23年（1554）年陶晴賢軍が津和野城を包囲した頃にさかのほる字名、「吉見乳母の墓」と伝えられる石塔など中世の名残が各所に見受けられる。

関ヶ原の役後、吉見氏は毛利氏に伴い萩に移るが、その後坂崎出羽守の16年間の治領となり、津和野城の大改築・城下町整備など現在の津和野の景観の基礎となる大事業が行われた。その後、龜井氏1代225年間の治世を経て明治維新を迎えることとなる。



- | | | | | |
|-------------------|-----------|-----------------|-----------------|---------|
| 1.高田遺跡 | 2.喜時雨遺跡 | 3.大蔵遺跡 | 4.中座遺跡群 | 5.津和野城跡 |
| 6.要害山 | 7.中荒城跡 | 8.茶臼山城跡 | 9.伝吉見民部墓（宝篋印塔） | |
| 10.鷺原八幡宮 | 11.陶晴賢本陣跡 | 12.横瀬遺跡 | 13.田平の至徳3年銘宝篋印塔 | |
| 14.西中組遺跡 | 15.山崎遺跡 | 16.森遺跡 | 17.丸山遺跡 | 18.山根遺跡 |
| 19.伝吉見正頼夫人墓（宝篋印塔） | | 20.伝吉見頼行墓（宝篋印塔） | | 21.日浦遺跡 |

第2図 喜時雨遺跡の位置と周辺の遺跡分布図 (1/50,000)

III. 調査の方法と経過

今後予想されるは場整備の計画範囲を対象にして、合計62ヶ所のテストピットを設定した。テストピット番号は昨年度の番号を継続して使用した。現地調査は発掘・実測作業を1997(平成9)年1月23日～2月20日、埋め戻し作業を2月24日～3月18日におこなった。

IV. 調査の概要

TP32～34は喜時雨川の奥部、標高198～201mの地点に設定した。いずれの調査区も砂礫、砂、砂質土、粘質土が互層状にみられ、東方の谷から堆積したものと考えられた。遺構、遺物はない。TP32の第7層およびTP33の第5～9層から杭先状に尖った自然木が出土した。

TP35～37は標高186～187mの地点に設定した。以前、TP35の西方の畑より五輪塔空風輪部(田二穂家ノ下石塔)が採集されていることから、関連する遺跡の存在が考えられた。しかしながら、出土遺物は近世以降の陶磁器が少量のみで遺構も発見されなかった。TP37では耕作土下約70cmで褐色砂礫の地山となる。

TP38～43は喜時雨川の下流右岸に設定した。TP38～41では砂礫、砂、砂質土、粘質土、粘土が互層状にみられ、喜時雨川が過去に氾濫し堆積したものと考えられた。遺物はTP40～41・43で近世以降の陶磁器片が少量出土したのみである。遺構はいずれも発見されなかった。

TP44・45はTP35から100m程度さかのぼったところに設定した。昨年度試掘調査TP16・17で縄文時代後期の遺跡が発見されたことから、この遺跡の広がりを確かめることを主



第3図 試掘調査区（北半）配置図（1/4,000）

な目的として調査した。調査の結果、遺構・遺物とも発見されず、縄文時代後期の遺跡はごく狭い範囲に限られることがあらためて確認できた。

TP 4 6 は喜時雨川が谷から平地に向けて流れ始めるあたりの左岸に設定した。喜時雨川と津和野神社の裏山にはさまれた狭い場所である。第5層中より弥生土器あるいは土師器とみられる土器片が出土した。調査区内では遺構は確認できなかった。出土遺物の中で固化が可能であったものは甕のみである。**1・2** は口縁部を横ナデし、体部には指頭圧痕が見られる。いずれも内傾接合の痕跡が確認できる。

TP 4 7 はTP 4 6より約50m南西に設定した。TP 4 6の田面より約2.5m低く、喜時雨川の左岸に当たる。TP 4 6で見られた土器は発見されなかつたが、杭先状の加工をした木製品が

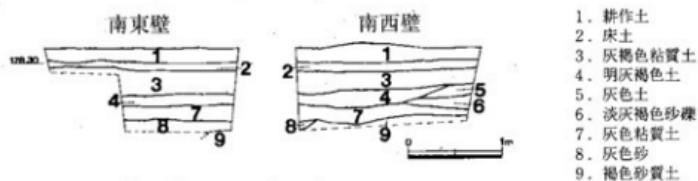
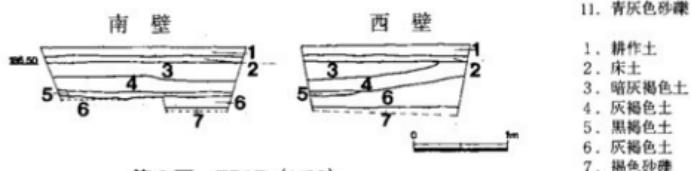
出土した。木製品は第8層褐色砂礫付近からの出土で、かなり深い層から出土していることからTP 4 6出土遺物と同時期のものであるかもしれない。

TP 4 8～5 2 は標高180～183mの地点に設定した。いずれも遺構はない。遺物はTP 5 0で近世以降の陶磁器が少量発見されたのみである。TP 4 8・5 1・5 2では耕作土下約20～30cm程度で地山があらわれ、TP 4 9・5 0では耕作土下約50～80cmで地山があらわれた。

TP 5 3 は北東方向からのびる尾根最端部の直下に設定した。耕作土下約50cmで非常によくしまった地山層にあたる。第3層暗灰



第4図 試掘調査区（南半）配置図（1/4,000）

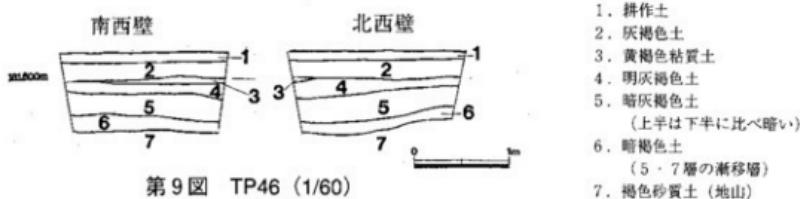


色粘質土付近から須恵器片3が出土した。遺構はない。

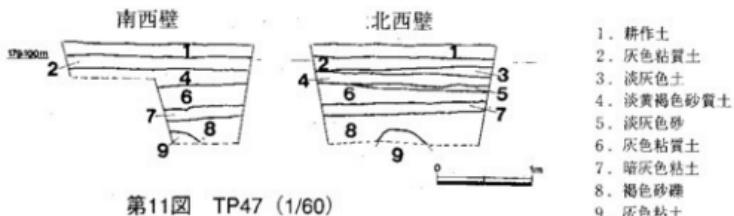
TP54～58は標高178～180mの地点に設定した。いずれも遺構はない。遺物はTP57で近世以降の陶磁器が少量発見されたのみである。

TP59・60は標高180m付近に設定した。いずれも遺構はない。遺物はTP60で近世以降の陶磁器が少量発見されたのみである。TP59では、耕作土直下から約50cm以上の大厚さで第4層淡黄灰色粘土がみられた。

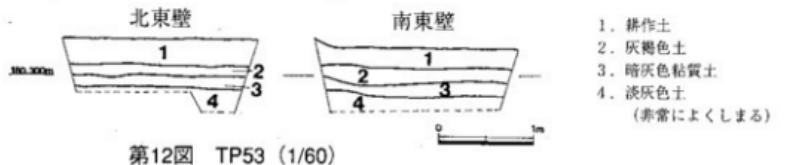
TP61は標高179.10mの田面に設定した。遺構・遺物ともに未発見である。



1. 耕作土
2. 灰褐色土
3. 黄褐色粘質土
4. 明灰褐色土
5. 暗灰褐色土
(上半は下半に比べ暗い)
6. 暗褐色土
(5・7層の漸移層)
7. 褐色砂質土(地山)



1. 耕作土
2. 灰色粘質土
3. 淡灰色土
4. 淡黄褐色砂質土
5. 淡灰色砂
6. 灰色粘質土
7. 暗灰色粘土
8. 褐色砂砾
9. 灰色粘土



1. 耕作土
2. 灰褐色土
3. 暗灰色粘質土
4. 淡灰色土
(非常によくしまる)

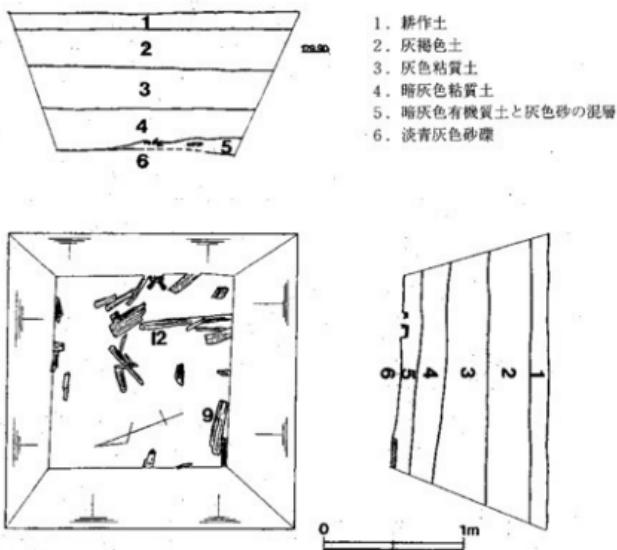
TP 62・63は標高181m付近の田面に設定した。TP 62の北東の182.90mの水田の字名が「堀」であることから中世の館の堀跡の一部の検出の可能性を考え調査に臨んだが、鉄分を多く含んだ湧水が甚だしく地表下約30~40cmで調査を断念してしまった。調査のかぎりでは遺構・遺物ともに発見できなかつ

た。結果的には付近の調査区で中世遺物が少量しか発見されていないこと、及びこのあたりが瓦の土取り場であったと伝えられていることから、中世の館跡に伴う堀跡の一部である可能性は低いと考えられる。

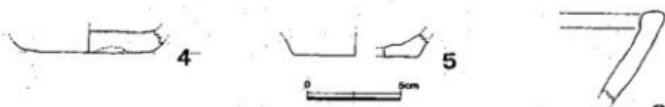
TP64は周辺の調査区よりも一段高く、西方に突き出した標高181.00m付近の田面に設定した。床土以下は地山であり、遺構・遺物ともに検出できなかった。

TP65は標高179.65mの田面に設定した。耕作土以下は灰色粘質土、暗灰色粘質土となっており、遺構・遺物ともに検出できなかった。

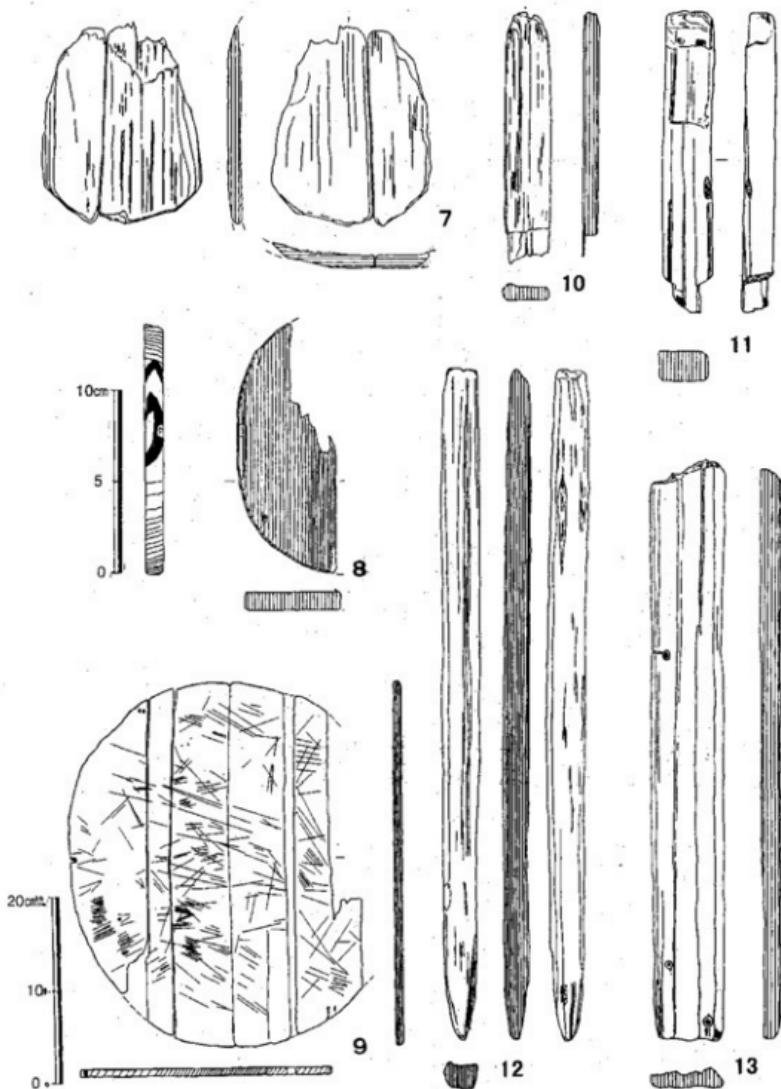
TP66は東方からの台地が終わった据部に設定した。遺構はない。第5層は中世の木製遺物包含層である。木製品に伴って中世土師質土器5が出土したが、遺物量は多くない。中世土師質土器4は第4層付近、中世瓦質土器6は第2～3層付近から出土した。木製品7～13は第5層中の出



第14図 TP66 (1/40)



第15図 TP66出土土器 (1/3)



第16図 TP66出土木製品 (7・8・10・11・13 : 1/3, 9・10・12 : 1/6)

土である。7は杓子状のもの、9の片面には、鋭利な刃物による不規則な傷跡が多数確認でき、また板として代用されたものか。掲載していないが他に、中世土師質土器口縁部が出土している。

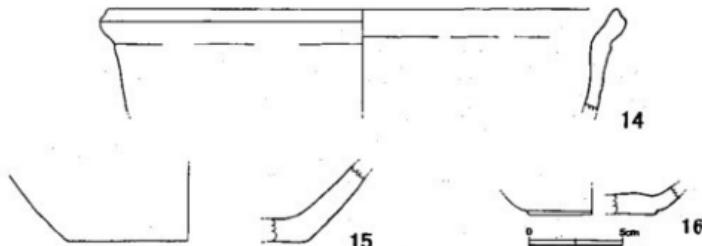
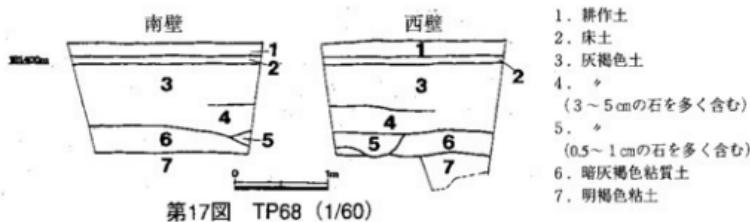
TP 67はTP 65と同じ水田面の南西半に設定した。地表下約50cmで砂疊と粘質土が互層状となる。遺構・遺物ともに無し。

TP 68は台地上面の縁辺部に設定した。床土以下は灰褐色土の厚い堆積が見られた。灰褐色土下端の第5層は深さ約30cmくほんでおり、遺構の一部と考えられる。第6層が粘質土であるためか、第5層の最下部からは湧水が見られた。第7層上面も遺構面である可能性を考え精査したが、遺構・遺物は検出できなかった。遺物は中世土師質土器が少量出土している。**14・15**は土師質の鍋・鉢類、**16**は土師質の皿あるいは壺である。14の体部には指頭圧痕が見られ、ススが付着している。第3層下半から**15**、第3～4層から**14**、第4層中から**16**が出土した。

TP 69・70は喜時雨川沿いの左岸に設定した。遺構はない。遺物はTP 70より近世以降の陶磁器が少量出土したのみである。

TP 71・72はTP 69・70より東方に1.5～2m高い場所に設定した。いずれの調査区も床土以下は灰褐色土、褐色粘質土あるいは砂質土となる。いずれも遺構・遺物はない。

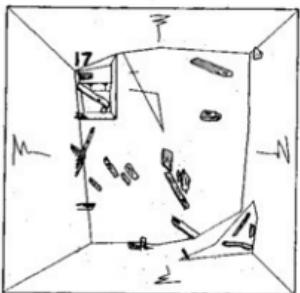
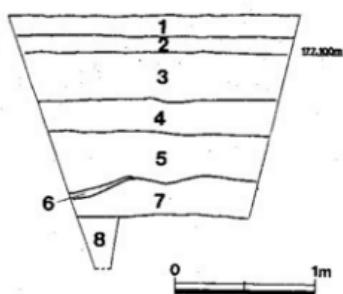
TP 73・74はTP 71・72の東側、ほぼ同じ高さの場所に設定した。TP 73では地表下約30cm、TP 74では地表下約50cm地山となる。いずれも遺構・遺物はない。



第18図 TP68出土遺物 (1/3)

TP75は東西よりはやや低い湿田状となったところに設定した。耕作土以下約50cmは粘質土が互層状に堆積しており、褐色土、にぶい青灰色砂礫となる。遺構はない。遺物は第3層までのところで近世以降の陶磁器が少量出土したのみである。

TP76もTP75と同様の東西よりはやや低い湿田状となったところに設定した。第5～6層にかけて木製遺物を包含していた。**I7**のように立った状態で出土した杭もあり、水田あるいは川岸にともなう遺構の一部であった可能性が高い。その時代は、他の遺物を伴っていないため明らか

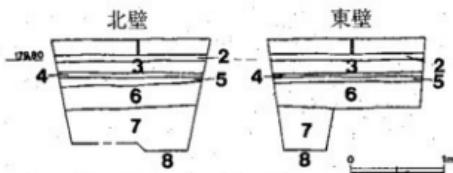


第19図 TP36 (1/40)

- | | |
|------------|----------|
| 1. 耕作土 | 5. 灰色粘質土 |
| 2. 淡灰褐色粘質土 | 6. 灰白色粘土 |
| 3. 淡灰褐色土 | 7. 黒灰色粘土 |
| 4. 灰褐色粘質土 | 8. 灰色粘土 |



第20図 TP76出土木製品 (1/6)

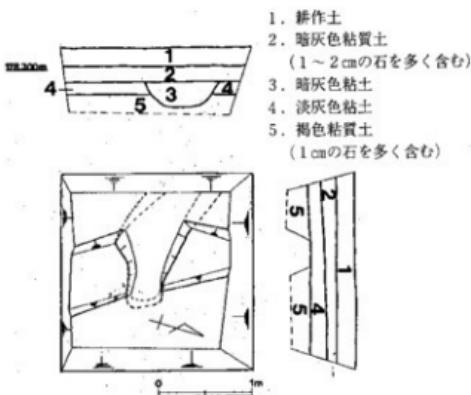


第21図 TP81 (1/60)

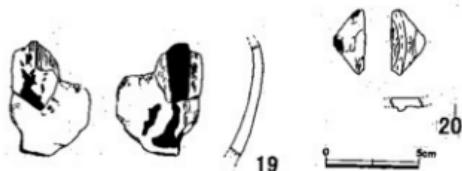
- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 耕作土 | 5. 明褐色砂質土 |
| 2. 床土 | 6. 暗灰褐色土 |
| 3. 淡灰褐色砂礫 | 7. にぶい褐色土 |
| 4. 灰色土 | 8. 暗赤褐色土 |



第22図 TP81出土遺物 (1/3)



第23図 TP82 (1/60)



第24図 TP82出土遺物 (1/3)

ではないが、東方で発見された弥生時代あるいは中世の遺跡に対応しているものと考えられる。

TP77は**TP76**の南西部に設定した。地表下約80cmで地山状の第6層淡褐色土となる。遺構・遺物は発見されていない。

TP78~80は通称「たて道」の南、次第に東方に高くなり始める場所に設定した。いずれも地表下約40~80cmで砂礫層がはじまる。遺構はない。いずれも耕作土・床土付近を中心として、近世以降の陶磁器が少量出土した。

TP81は**TP79**の南側、ほぼ同レベルのところに設定した。遺構はない。第5・6層付近より**18**が出土した。**18**は縁反りの白磁口縁部である。

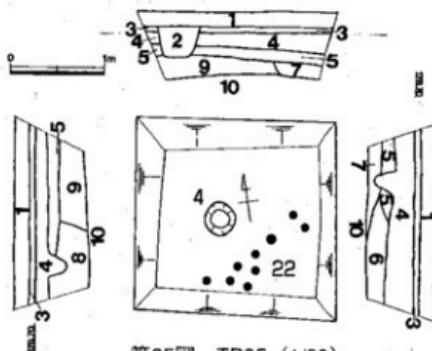
TP82は**TP80**の南側、ほぼ同レベルのところに設定した。現在、この水田の北辺中央の畦に五輪塔空風輪部（田二穂弘石塔）が置かれている。この五輪塔空風輪部は、耕作者によると以前は水田中央に集石があり、その上に置かれていたという。水田耕作の際に都合が悪いことから、現在地に移動したことであったが、そのときには遺物は出土しなかったようである。今回の調査区は五輪塔空風輪部がもともとあった場

所を聞き取り、その地下に遺構が存在しているかどうかを確認するためには設定した。調査の結果、第4層上面より掘り込まれた第3層を確認し、調査区外にさらに細長く続いていることが分かった。遺物は第2層付近からではあるが、黒色漆の漆器片①9・20が出土した。なお掲載していない遺物として、第2層付近から出土した中世土師質土器皿口縁部、瓦質土器鍋口縁部がある。

TP83はTP81の南側、ほぼ同レベルのところに設定した。床土上面から掘り込まれた桑株列の痕跡を確認したのみで、遺構はない。耕作土・床土付近を中心として、近世以降の陶磁器が少量出土した。

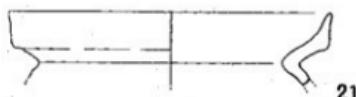
TP84はTP82の南側、ほぼ同レベルのところに設定した。耕作土下は砂質土・粘土の厚い堆積がみられる。遺構はない。遺物は、耕作土より近世以降の陶磁器が少量出土した。

TP85はTP83の南側、ほぼ同レベルのところに設定した。耕作土下面で桑株列の痕跡、第4層下面で中世期と考えられる柱穴状の遺構を確認した。遺構埋め土は第4層黒褐色土である。地山とみられる第9・10層上面で竪穴住居跡などの大型遺構の縁辺部らしきものを確認し

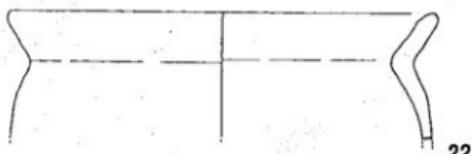


第25図 TP85 (1/60)

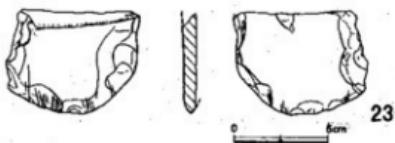
1. 耕作土
2. 灰色土（桑株列痕）
3. 床土
4. 黒褐色土（0.5cmの石を多く含む）
5. 暗褐色土
6. 暗灰褐色土（0.5cmの石を多く含む）
7. 灰褐色土
8. 灰褐色雑混じり土（1~2cmの石多い）
9. 淡灰褐色土
10. 褐色土



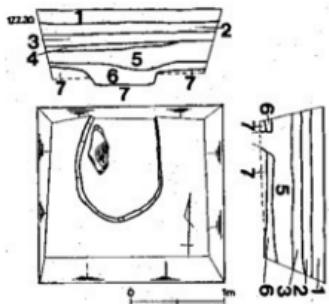
21



22

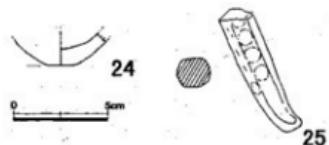


第26図 TP85出土遺物 (1/3)

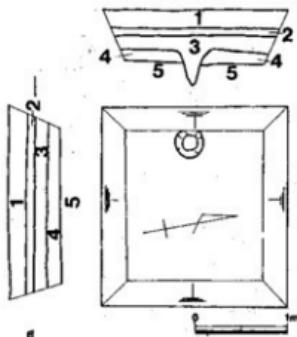


第27図 TP87 (1/60)

- | | |
|---------|----------|
| 1. 耕作土 | 5. 暗灰褐色土 |
| 2. 床土 | 6. 暗褐色土 |
| 3. 旧耕作土 | 7. 褐色土 |
| 4. 旧床土 | |



第28図 TP87出土遺物 (1/3)



第29図 TP88 (1/60)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 耕作土 | 4. 暗褐色土 |
| 2. 床土 | 5. 褐色土 |
| 3. 暗灰褐色土 | |

た。これは、試掘坑壁の土層堆積状況および遺物の出土状況から判断したものである。遺構の輪郭は直線的なのか曲線的なのか、掘り過ぎてしまったため確認できなかった。遺物は第6・7・8層より**21・22・23**が出土した。**21・22**はいずれも弥生時代後期から古墳時代前期にかけての甕である。**21**は複合口縁、**22**は単純口縁である。**23**は使用痕が明瞭に残っている打製石斧片である。

TP86はTP87の南東側、ほぼ同レベルのところに設定した。床下は砂質土が厚く堆積している。遺構・遺物は発見していない。

TP87はTP86の南東側、約90cm高くなつたところに設定した。第5層下面で柱穴状遺構、第6層下面で焼石の入った土坑を確認した。周辺の調査区の状況から前者は中世期、後者は弥生時代後期～古墳時代前期のものとみられる。**24**は弥生時代後期の甕底部、**25**は中世瓦質土器鍋の足である。このほかに、弥生時代後期～古墳時代前期の甕の複合口縁部片も出土した。

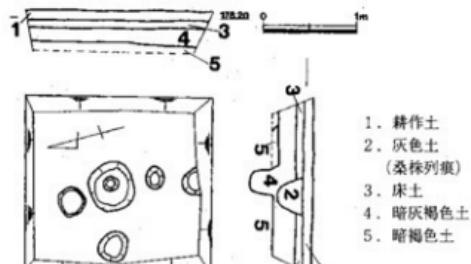
TP88はTP87の東側やや高くなつたところに設定した。第3層下面で柱穴状遺構1穴を確認した。遺物は耕作土から近世以降の陶磁器が少量出土したのみであるが、周辺の調査区の状況から第3層は中世期、第4層は弥生時代後期～古墳時代前期に対応するものとみられる。

TP89はTP87の東側やや高くなつたところに設定した。第1層下面で桑株痕、第4層下面で柱穴状遺構5穴を確認した。柱穴状遺構内からは炭と中世土師質土器小片が多く出土した。**26**は第4層上半、**27**は第4層下半から出土した中世土師質土器片である。なお、第5層は一部しか発掘してい

ないが、周辺の調査区の状況から弥生時代後期～古墳時代前期に対応するものとみられる。

TP90はTP87～89の南側に一段低くなったところに設定した。第3層下面で中世の柱穴状遺構を6穴程度確認した。第5層の地山がはっきりしているため遺構検出作業は容易であった。柱穴状遺構P1から29・32・34、P2から28が出土した。30・31・33は第3層より出土したものである。28は青磁碗底部、29は中世瓦質土器口縁部、30～34は中世土師質土器である。なお、第4層が一部にみられたが、周辺の調査区の状況から弥生時代後期～古墳時代前期に対応するものと思われる。

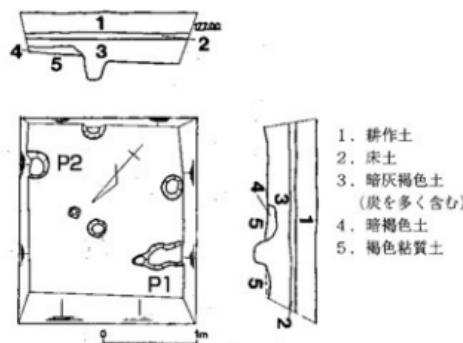
TP91はTP90の南側にさらに一段低くなったところに設定した。第3層下面で土坑をともなった集石遺構(SX1)を確認したため、試掘溝を入れ一部を発掘した。SX1の底と想定される付近から鉄釘36・37が出土した。また、集石は周辺が高く、中



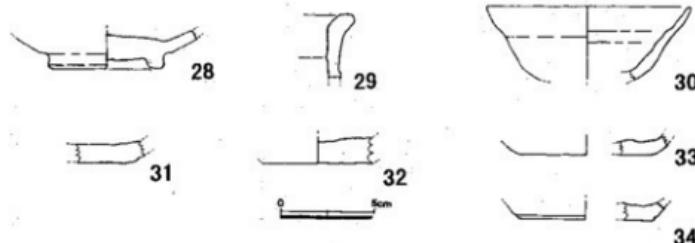
第30図 TP89 (1/60)



第31図 TP89出土遺物 (1/3)



第32図 TP90 (1/60)

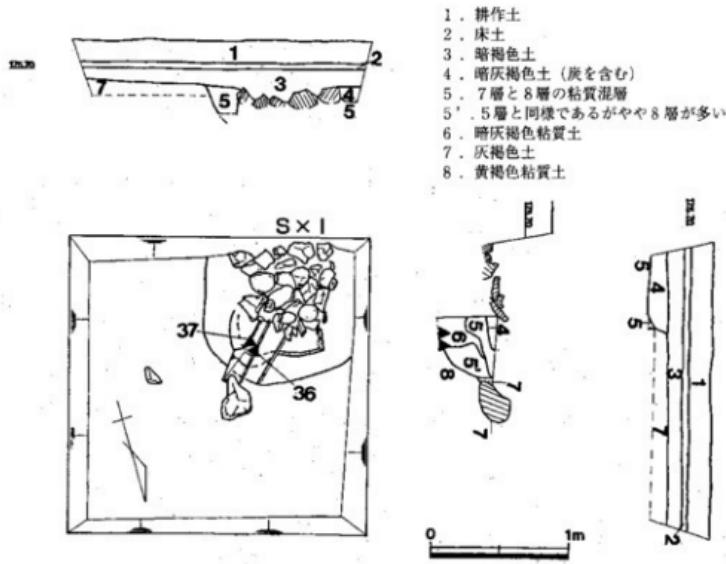


第33図 TP90出土遺物 (1/3)

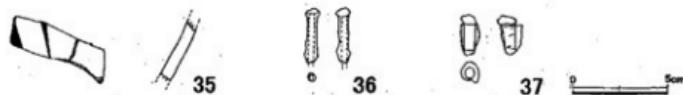
央部が低くなつており、個々の石も中央に傾いた状態のものが多く見受けられた。これらのことから、S X 1は木棺墓の上に墓標として集石が置かれていたものと思われる。S X 1内の第6層が棺内、第5'層が棺外に相当するものであろう。第3層からは、蓮弁文の一部がある青磁碗の胸部片35が出土している。調査したかぎりではS X 1の時期ははっきりしなかつたが、第3層がTP 9 0などの中世包含層に対応しているとみなせば、中世のいずれかの時期にあたるのであろう。

TP 9 2はTP 9 0の南西方向に設定した。地表下約60cmで褐色土の地山となる。過去にはTP 9 0方面から微高地状の地形が続いていたものと考えられる。遺構、遺物はない。

TP 9 3はTP 9 0の南側、今回の試掘調査で最も低いところに設定した。床土下に大規模な現代の擾乱があった。地表下約40cmで、淡褐色土の地山となる。遺構は発見していない。遺物は第



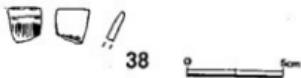
第34図 TP91 (1/40)



第35図 TP91出土遺物 (1/3)

4層暗灰褐色土あたりまでのところで38が出土した。

38は同安窯系青磁の口縁部である。



38

第36図 TP93出土遺物 (1/3)

第1表 1996年度喜時雨地区試掘調査地一覧表

TP	所在地	字名	TP	所在地	字名	TP	所在地	字名
32	大字田二穂345	釜ヶ溢上へ	53	大字田二穂163	中曾根	74	大字田二穂221	五助田
33	タタタ	タ	54	タ220-2	大名作り	75	タ222	狭間
34	タ344	釜ヶ溢	55	タ163	中曾根	76	タタタ	タ
35	タ282	畑ヶ田	56	タ220-1	大名作り	77	タ223-1	タ
36	タタタ	タ	57	タ162	兜	78	タ59	泓
37	タ271	畑田	58	タタ	タ	79	タ61	新田
38	タ256	斧戸	59	タ160	二反田	80	タ59	泓
39	タタタ	タ	60	タタ	タ	81	タ61	新田
40	タタタ	タ	61	タ162	兜	82	タ59	泓
41	タ254	古屋敷下	62	タ158	土穴	83	タ60	大苗代
42	タタタ	タ	63	タタ	タ	84	タ59	泓
43	タタタ	タ	64	タ157	新田	85	タ60	大苗代
44	タ360	堂ヶ溢	65	タ156	水神	86	タ224	柳ヶ窪
45	タタタ	タ	66	タタ	タ	87	タ58	道ノ下タ
46	タ261-1	四通り	67	タタ	タ	88	タタ	タ
47	タ218	コシマキ	68	タ82	タ	89	タタ	タ
48	タ215	郷神田上工	69	タ219	サイシメン	90	タ57	新田
49	タ165	郷神田	70	タ227-2	竹添	91	タ56	佛ノ段
50	タタタ	タ	71	タ220-1	大名作り	92	タ55-2	六畠田
51	タ164	中曾根	72	タ226	竹添上工	93	タ39	河原畑
52	タタタ	タ	73	タ221	五助田			

V. 小 結

喜時雨地区北半のうち、今年度調査したTP32～34、35～37、44・45の範囲については遺跡の範囲外であった。喜時雨地区北半の古代以前の主な遺跡は、昨年度調査区TP16・17付近の狭い範囲に限られるようである。

喜時雨地区南半は見た目には比較的平地の広がるところであるが、今回の試掘調査の結果、過去の地形は起伏に富んだものであり、この地形に制約されるかたちで遺跡が存在していることがわかった。喜時雨川西側に設定したTP38～43は遺跡の範囲外であった。喜時雨川の東側は、津和野神社のある山から南にのびる微高地（TP53～58～72・74にかけての範囲）、津和野神社のある山と津和野城跡のある山塊との鞍部から南にのびる埋没谷（TP62～61～77にかけての範囲）に大きく分割される。前者では地山が比較的浅い位置から検出され、後世に削平を受けていることがわかった。調査範囲東辺はTP64付近、及びTP81～87～92付近が東方の津和野城跡のある山塊から西方にせり出した丘陵の端部にあたる。

喜時雨地区南半の遺跡は、弥生～古墳時代と中世の遺跡に大きく分けられる。TP46で弥生時代あるいは古墳時代の遺物包含層を発見したが、遺構の存在は確認できなかった。TP53では須恵器片を発見した。北側丘陵の字名が「小丸子」であることから削平された古墳あるいは古代の遺跡が存在していることを示していると思われる。TP66では中世の木製品包含層を確認した。これらはTP68より東方にいると予想される中世の遺跡からの流れ込み遺物と考えられる。またTP76では、打ち込んだ枕のある木製品包含層を確認した。詳細な時代は不明であるが、東方で確認した弥生時代後期あるいは中世のいずれかの遺跡に対応しているものであろう。TP85・87～90では弥生時代後期・中世の2遺構面を確認した。弥生時代後期の遺構は地山直上の暗褐色土が埋め土で、TP85の竪穴住居跡と考えられる遺構、TP87の配石土坑があるが、中世遺構の下にはまだ未発見のものが存在しているものと思われる。中世遺構は暗灰褐色土が埋め土で、柱穴多数が発見された。TP82では、五輪塔のあった場所の直下で土坑を確認した。発掘の際に漆器片が出土したことなどから、墓壙の可能性が高いと思われる。また、TP91では集石墓を検出した。一部の発掘にとどめたため詳細は明らかでないが、「仏ノ段」という字名が調査地に残されていることと一致し、興味深い。この周辺のTP92付近には16C代の特徴を持つ宝篋印塔の相輪部・笠部（田二穗六畝田石塔）が残っており、このあたりの時期に集石墓の時期を推定することも可能であろう。

註1 間野氏の編年の3a類に該当する。

間野大丞1996「高津川上・中流域の宝篋印塔」『宍道町歴史叢書』第1号

図版 1



調査地遠景



TP46遺物出土状況



TP66木製品出土状況

図版 2



TP68



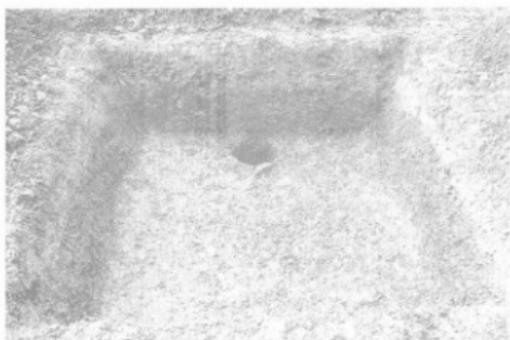
TP76木製品出土状況



TP85上層遺構と下層遺物出土状況



TP87土坑完掘状況

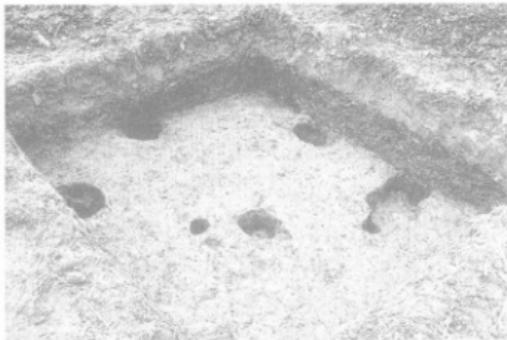


TP88中世遺構完掘状況



TP89中世遺構完掘状況

図版 4



TP90中世遺構完掘状況



TP91集石墓（S×1）検出状況



TP91集石墓（S×1）発掘状況



発掘作業風景



発掘作業風景



埋め戻し作業風景

図版 6



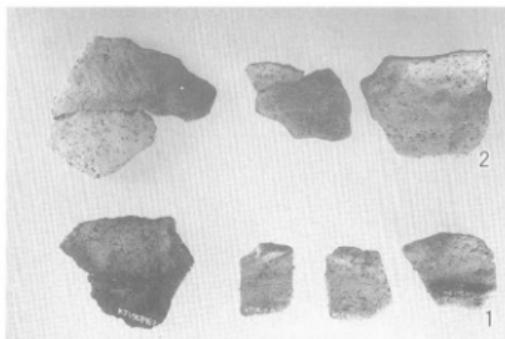
五輪塔（田二穂弘石塔）



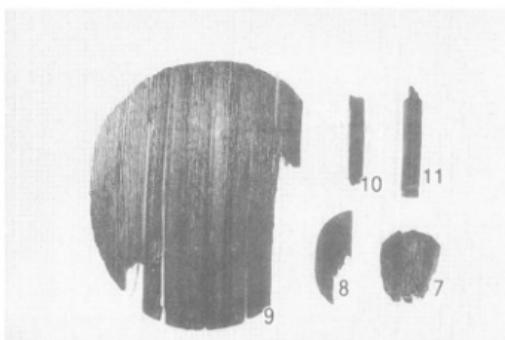
宝篋印塔（田二穂六畝田石塔）



字「水神」付近の現状



TP46出土遺物

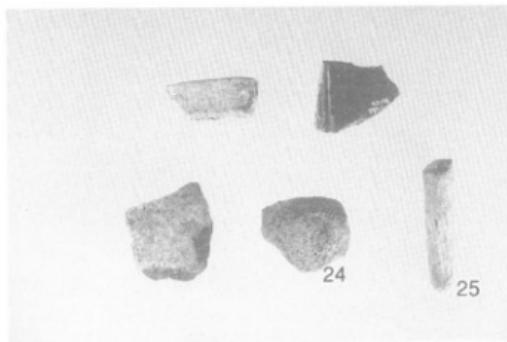


TP66出土木製品

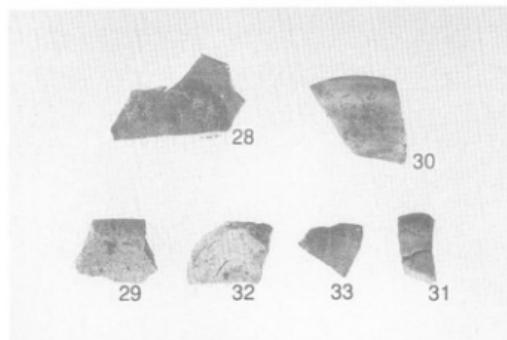


TP85出土遺物

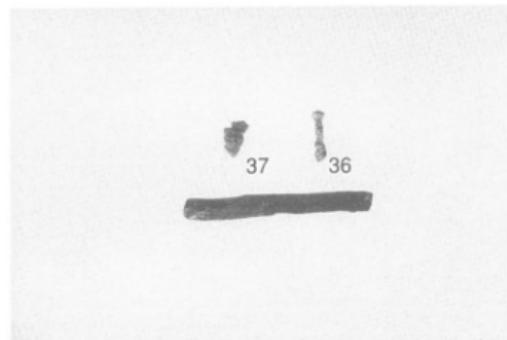
図版8



TP87出土遺物



TP90出土遺物



TP91集石墓 (S×1) 出土釘・炭

報告書抄録

ふりがな	きじうちくまいぞうぶんかざいしくつちょうさほうこくしょ
書名	喜時雨地区埋蔵文化財試掘調査報告書
副書名	
卷次	II
シリーズ名	津和野町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	
編著者名	宮田健一
編集機関	津和野町教育委員会
所在地	〒699-56 烏根県鹿足郡津和野町大字森村口127 TEL 08567-2-0300
発行年月日	西暦 1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きじう 喜時雨	しまねけんのかのあしきん 島根県鹿足郡 つわの きじうね あさ 津和野町大字 由五櫛 喜時雨地区	W	20	34度 27分 30秒	131度 45分 27秒	199701123 ～ 19970318	248	遺跡範囲 確認

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
喜時雨	集落跡	弥生時代 後期 中世	堅穴住居跡 柱穴、集石墓	弥生土器 土師質土器 瓦質土器 貿易陶磁器 木製品	喜時雨遺跡の範囲を確認。

津和野町埋蔵文化財報告書
喜時雨地区埋蔵文化財試掘調査報告書Ⅱ

1997（平成9）年3月

発行 津和野町教育委員会
島根県鹿足郡津和野町大字森村口127
印刷 (有)坂田印刷
島根県鹿足郡津和野町大字後田口702

